

縦横コラム

古本

「寄り道」の楽しさサイトでも

特段古本好きではないが、様々な来歴を背負う本たちが一つの世界を作っている古書店にいと、時間を忘れる。目当ての1冊を探さうちに、その隣や向かい、裏手にいる本が気になり、つい「寄り道」し、しまいに迷子になってしまふ。それがまた楽しい。

そんな感覚を盛り込んだ古書サイトができた。東京・神田神保町の古書店の連盟と国立情報学研究所が協力して作った「BOOK TOWN じんぼう (http://jimhou.info/)」だ。

できるが、特徴は「連想検索」。文章や言葉を入力すると、テーマや内容に共通点のあるものを選び出す。試しに「浮世絵と江戸文化」と入れると、浮世絵だけでなく、庶民の娯楽、錦絵、妖怪、戯作など多彩な本が並ぶ。同研究所の高野明彦教授によると「言葉同士の

結びつきを手がかりに、人間の頭が無意識にやっている発想の小さな飛躍をコンピュータが再現して、似た手触りのものを探してくる」のだという。

「街の歴史や店主の経験がにじみ出た本棚の前で、同時にいろいろな本が目に入ってくる感じを出したかった」と高野さん。収録データはまだ10万冊分ですが、あるうちのごく一部だが、

今後増やし、「連想はさらにきめ細くなる予定だ。目的に向かってまっすぐ進むのがネット検索の利点のはずなのに、あえて寄り道に誘うシステム。それを、最先端の情報技術が支えているのがおもしろい。デジタルな本探しが、「進歩」してアナログな書店巡りに近づく。これは、きっと「進化」なんだろう。(編集委員・山口宏子)

書名検索などはもちろん

